当報告の内容は著者の著作物です。

基幹研究「人類学におけるミクローマクロ系の連関」主催・情報資源利用研究センター共催：国際ワークショップ

平成 23 年 2 月 24 日（木曜日）13:30〜18:30　AA 研 301 室

「スース地方（モロッコ）の都市環境でベルベル民謡を再生したグループ・ミュージシャンたち：イズンザルンとウダードゥン」

ラハセン・ダーイフ（歴史資料研究センター／フランス国立科学研究センター）

スース地方の様々な部族において，アホワーシュという様式（ベルベル人たちの民俗歌舞）は，各部族特有の歌や音楽文化を体現している。最近では 70 年代まで，地方的アイデンティティーの異同を結集させるこの様式は，ムハンマド・アルベンスィールやサイード・アシュトゥークのような，スース（シュルーフ）のすべての人々に訴えながら共同体のオールナティブを確たるものとしていた吟遊詩人たち（*rwayes*，単数は *rayes*）の歌と対比されつつ続けられていた。それらの吟遊詩人たちの多くは，彼らが対象とする聴衆が多いことから，自分たちの実践的な技法をそれぞれの出身部族のアホワーシュから取り込んではいるものの， 殆どすべてのシュルーフが互いにそれとわかるように一新されたアマルグ（歌）を世に出すことに貢献した。しかしながら，モロッコの公的な学校で教育を受けた都会の若い世代には，吟遊詩人たちの歌は広く受け入れられなかった。さらに，多くの教育を受けたこの教養のある新たな聴衆は既に，モロッコやアラブの，その上，フランスやイギリスの歌に馴染んでいた。しかし彼らも結局は，モダンなスタイル，オリジナルな主題，わかりやすい言葉を持つ若いグループ・ミュージシャンに魅了されることになる。それはまず，アブダッルハーディー・イグートという名の，歌手にして詩人が率いる，最も知られたグループのひとつであるイゼンザルンであり，そして現在最も人気のある，アブダッラー・エルフワーをリーダーとするウダードゥンである。

この報告においては，最近の 40 年間に活躍したグループについて，歌詞や音楽のレベルのみならず，楽器や舞台衣装について論じながらひと通りの概略を述べる。また，彼らが歌において扱った主なテーマについて，それらの言語的な特徴を見失うことなく，検討を行う。